

(参照1)

平成22年3月吉日

「外傷に伴う低髄液圧症候群」作業部会報告

	開催日時
第1回作業部会	平成18年1月12日(木)
第2回作業部会	平成18年5月18日(木)
第3回作業部会	平成18年6月27日(火)
第4回作業部会	平成18年7月27日(木)
第5回作業部会	平成18年8月21日(木)
第6回作業部会	平成18年9月25日(月)
第7回作業部会	平成18年11月15日(水)
第8回作業部会	平成19年1月20日(土)
第9回作業部会	平成19年5月30日(水)
第10回作業部会	平成19年8月28日(火)
第11回作業部会	平成19年10月9日(火)
第12回作業部会	平成20年1月8日(火)
第13回作業部会	平成20年2月25日(月)
第14回作業部会	平成20年4月22日(火)
第15回作業部会	平成20年9月1日(月)
第16回作業部会	平成20年10月27日(月)
第17回作業部会	平成21年1月19日(月)
第18回作業部会	平成21年4月27日(月)
第19回作業部会	平成21年6月29日(月)
第20回作業部会	平成21年8月24日(月)
第21回作業部会	平成21年11月16日(月)
第22回作業部会	平成22年1月18日(月)
第23回作業部会	平成22年3月1日(月)

作業部会委員(敬称略):有賀徹(委員長),阿部俊昭,小川武希,小沼武英,片山容一,
榊寿右,島克司,平川公義

文献検討実務者委員(敬称略):川又達朗,刈部博,土肥謙二,平林秀裕,前田剛,
村上成之,苗代弘

アドバイザー:井田正博(荏原病院放射線科)

馬場久敏(福井大学 器官制御医学講座整形外科領域)

(参照2)

作業部会における主たる協議事項と報告事項（年度別）

平成18年度

- 1) 問題点（医学的、社会的、他）の抽出
- 2) 斯界（脳神経外科学会、行政、立法府など）における動向
- 3) 積極的に治療に当たる考え方との意見交換
- 4) 画像診断に関する専門家との意見交換
- 5) 国内外の関連する文献の検索と分析・検討

低髄液圧症候群に関する論文300件余の検討（うち医原性を除いた外傷に伴う低髄液圧症候群の論文30件余についての詳細な分析と検討）

- 6) 診断に関する検討およびそれに関する基本的な見解のまとめ
- 7) 学術集会（平成19年3月、仙台）での発表に関すること

平成19年度

- 1) 馬場久敏先生により、本疾患の周辺疾患である外傷性頸部症候群についての病態解析と診療上の問題点の整理、低髄液圧症候群に関する最近の動向（政治的、社会的、医学的）についての講演をしていただいた（第10回作業部会）。その後、馬場久敏先生には当作業部会のアドバイザーとして加わっていただいた。
- 2) 脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究（平成19年度厚生労働科学研究費補助金）について、本作業部会からは有賀委員長と馬場アドバイザーが分担研究者として、井田アドバイザーが研究協力者として参加している。適宜働きかけを行なっていくこととした。
- 3) 学会誌への発表に先立って、学会HP上に“「頭部外傷に伴う低髄液圧症候群」の診断基準などについて”として“外傷に伴う低髄液圧症候群診断のフローチャート”及び“低髄液圧症候群の診断基準”を公表した（別紙）。
- 4) 本作業部会の英文名についてはWorking group of intracranial hypotension(The Japan Society of Neurotraumatology)とした（⑤に関連して）。
- 5) 神経外傷 第30巻第1号に“「頭部外傷に伴う低髄液圧症候群」作業部会報告”として誌上発表した。詳細は以下のごとくである。
 - ・特発性低髄液圧症候群：病態と診断・治療
防衛医科大学校脳神経外科島 克司…………… 7
 - ・頭部外傷に伴う低髄液圧症候群」に関するアンケート調査結果について
昭和大学医学部救急医学土肥 謙二他…………… 14
 - ・外傷に伴う低髄液圧症候群：日本と海外論文の比較

日本大学脳神経外科川又 達朗他…………… 21

・低髄液圧症候群：画像診断

荏原病院放射線科井田 正博…………… 30

6) 作業部会の診断基準に準じた症例の実態調査のための前向き調査について検討を開始した。

平成20年度

1) 第31回日本神経外傷学会のシンポジウムについて本作業部会から以下の内容について発表した。

【1】馬場委員 外傷性頸部症候群の病態解析

【2】井田委員 低髄液圧症候群の画像診断

【3】島委員 病態と診断・治療の問題点

【4】川又委員 前向き調査計画

2) 外傷に伴う低髄液圧症候群：前向き調査 について計画し、2008年9月から1年間の計画で症例登録が行われている。

前向き調査エントリー用紙送付先は以下の通りである。

1. 日本脳神経外科訓練施設長 A 項、C 項宛 1170 件

2008年8月25日送付

2. 日本神経外傷学会会員 872 通

2008年9月4日送付

3. 日本脊髄外科学会機関誌「脊髄外科」に同封発送 920 部

2008年12月1日発送

4. 日本脳神経外科学会機関誌「Neurologia」に同封発送 8000 部

2008年12月4日発送

5. 本学会機関紙「神経外傷」へ症例登録のお願いについて掲載

2009年3月

平成21年度

1) 外傷に伴う低髄液圧症候群前向き調査について

外傷に伴う低髄液圧症候群前向き調査を引き続き継続した。2009年8月31日に登録が締め切られた。全登録症例数は12施設から登録された25症例だった。全ての症例について主治医とのカンファレンスを含めて詳細な検討を行った。その結果の詳細

については次年度に学会誌にて報告を予定しているが、その概要については本作業部会報告内にて掲載する。

2) 作業部会と本疾病に関する名称について

今までの調査結果や文献検討などを受けて、作業部会名と病名に関して「外傷に伴う低髄液圧症候群」作業部会、「外傷に伴う低髄液圧症候群」と変更した。

3) 2010年3月1日における今後の予定

1. 登録症例の詳細な検討と作業部会報告の作成
2. 前向き調査を受けてのガイドラインの公表
3. ガイドラインを重症頭部外傷のガイドラインへの掲載
4. 機関誌に前向き調査の報告を掲載